

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYK プラス
2016 Autumn

Vol.
20

【特集】モノ運び最前線・最新技術で運ぶ

CAコンテナで日本産青果物を海外へ





創刊20号を迎えて

NYKプラスは、今号で創刊20号を迎えたことを機に、

誌面デザインほか、いくつかの企画をリニューアルしました。

2006年6月28日に開催した第119期定時株主総会で、ある株主の方から「数字ばかりの営業報告書では、日本郵船にどのような人が居て、どんなことをしているのかわからない」というご意見をいただきました。

NYKプラスは、これを受け、翌2007年5月に創刊した個人株主向けの冊子です。企業は株主に对しささまざまな形で情報を発信していますが、対象を個人株主に絞った冊子は多くありません。本誌を通して当社の現場の空気をより感じていただけるよう、基本コンセプトは①当社で働く人を登場させる ②日々の業務を分かりやすく紹介する——の二点にしました。

メインの企画は「モノ運び最前線」。当社が運んでいる「荷物」に焦点を当て、どんな船で、どんなノウハウで輸送しているのか、その現場を紹介してきました。また、PERSON@NYKのコー

ナーでは、当社および当社グループ各社で働く「人」の「ある日」を追いかけてきました。

今回のリニューアルにあたっては、創刊の経緯を踏まえ、基本コンセプトは変えず、①若手や女性社員の登場機会を増やす ②各企画のデザインを一新する——という点にポイントを置いていきます。冒頭ページでは次号より、CSRへの取り組みを紹介いたします。「PERSON@NYK」は、第一線で活躍する若手社員や女性社員が登場します。「SAFEETY&ECO」は、タイトルを「きざり技術力」に変更、より幅広い視点で当社が生み出した新技術や創意工夫について紹介します。「TOPICS&NEWS」は、これまで当社のニュースに特化してきましたが、業界のニュースも新たに加えました。

NYKプラスでは、当社の「人となり」を株主の皆様に分かりやすく伝えていきます。今後ともご愛読よろしくお願いたします。

NYKplus History



2007年5月
創刊号



2009年5月
vol.5



2014年5月
vol.15

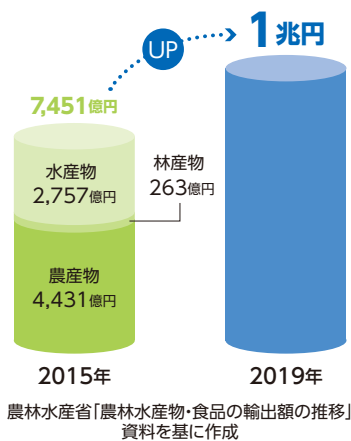


2011年11月
vol.10

バックナンバーは当社ウェブサイトにてご覧いただけます。



■農水産品輸出額目標



本の農水産品の人気は年々高まっています。このため、日本からの農水産品輸出額は順調に増加。政府は2019年までに、輸出額を1兆円規模へと拡大する目標を掲げています。

「海外」で日本食が人気！最近、こ
うした話を耳にする機会が増
えてきました。欧米だけでなく経済成長
著しいアジア各国で、安全で高品質な日

CAコンテナで日本産青果物を海外へ



多くの関係者が注目するCAコンテナ

モノ運び最前線
vol.19

最新技術 で運ぶ

「CA*コンテナ」という単語は、まだ耳慣れないかも知れませんが、このコンテナは、内部の温度のみならず空気組成そのものを調整する機能を有し、果物や野菜の鮮度を保ったまま船で輸送することを可能にします。昨今の海外における日本食の人気を受け、このCAコンテナを活用した青果物の輸出が急速に脚光を浴びるようになってきました。当社も、この取り組みを積極的に進めています。

*CA=Controlled Atmosphere (大気調整)



このうち、特に果物や葉物野菜はこれまで高額の商品を少量輸出するだけであつたため、輸送手段は専ら航空輸送に頼っていたのが実情でした。しかし、海外で日本食人気が高まるなか、より多くの商品を競争力のある価格で現地で販売できるようにするためには、やはり船による海上輸送が不可欠になります。

通常、船でこうした青果物などを輸送する際は、コンテナ内部を一定温度に保つ機能を持ったリーファーコンテナが使用されます。野菜や果物は、収穫後も呼吸を続けていますが、この呼吸により内部に蓄えていた糖分を消費し、さらに老化を促すエチレンガスを排出すること

窒素が約78%で酸素が約21%、残りが二酸化炭素などの微量ガスですが、この酸素量を減らすことで青果物の呼吸をさらに抑制することが可能となります。このためCAコンテナは、装備している窒素ガス発生装置でコンテナ庫内に窒素を送り込む一方で酸素を庫外に排出し、酸素は数%というCA環境を作り出します。酸素が減少すると青果物は一種の冬眠状態となり、通常のリーファーコンテナに比べてさらに長期間、しかも品質劣化がほとんど無いまま輸出することが可能になります。

当社はもともと、このCAコンテナを約1000本所有していましたが、昨年

で、品質が徐々に劣化してしまいます。

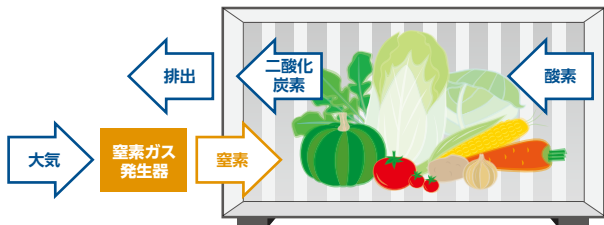
呼吸は、リーファーコンテナで冷却することで、ある程度抑制が可能ですが、完全に防ぎきることはできません。しかし、輸送するのは高品質が売りの日本産青果物です。国内で入手するのと変わらない品質の商品を海外で販売するため、鮮度低下につながる呼吸作用をさらに抑制し、高品質保持を可能とした特殊なリーファーコンテナが、今回のCAコンテナです。

CAコンテナの特徴は、コンテナ庫内の温度だけでなく、酸素や二酸化炭素などの空気成分をコントロールする機能を備えている点です。通常の空気組成は、

末に新たに700本を追加調達しました。新型CAコンテナは、CA環境に加えて湿度もコントロールすることで、よりみずみずしい状態での貨物輸送を可能にするという独自の工夫も加えられています。

これまでCAコンテナは、海外からアボカドなどの輸入で活用するのが一般的でした。しかし、昨今の状況やTPP（環太平洋パートナーシップ）協定による輸出機会の増加期待を背景に、当社では輸出での活用にも取り組んでいます。当初は実験輸送という形でスタートしましたが、その品質が確認されたことで、現在は香港やタイなどのアジアへ果物や葉

■CAコンテナのしくみ



コンテナ庫内に窒素ガスを送り込みます



さまざまな商品を混載して出荷します



CAコンテナへ貨物を積み込みます

自治体や農業団体も熱視線

物野菜の輸出でも活用されるようになってきました。

海

外での日本食品人気を受け、CAコンテナに熱い視線を注ぐのは企業だけではありません。農業団体に加え、全国の自治体からも地元名産品を輸出すべく、多くの問い合わせが寄せられています。既に輸送実験などが始まっている事例もあり、CAコンテナによる青果物輸出はさらに増えることが期待されています。

また、現在は多様な商品を一つのコンテナに混載するのが一般的ですが、物量が増えれば、商品ごとにコンテナを仕立てることもできるようになります。そうなれば、商品に応じて最適化された空気の組成を設定し、さらに高品質化を図ることも可能となるでしょう。海外の食料品店で、当たり前のように日本産の野菜や果物を購入する。そんな日が実現するのも、そう遠くない将来のことかも知れません。

グローバルな舞台で女性たちにもっと活躍してほしい



人事グループ ダイバーシティ推進チーム

チーム長

安達 志保さん

大松 結城子さん



CAコンテナ
貯蔵試験前の
メロン



2週間後



CAコンテナ
貯蔵試験前の
春菊



2週間後

長期間の輸送でも品質が保持されます

自身の経験を生かし 職場復帰をサポートしていきたい



02年にオープンした事業所内保育所には常時10人前後が入所し、最近では男性社員の子ども連れの出勤が普通的光景になりつつあります



大松 結城子さん

産休・育休を経て15年10月から人事グループダイバーシティ推進チームに所属。「時間の制約がなかった昔と比べてより効率を意識する働き方になりました。家事もマルチタスク志向になり、歯磨きの間も空いている手で何かできることはないか考えてしまいます(笑)」



14年に本格的に始動した「女性活躍推進プロジェクト」の実行部隊も担い、意識改革のための社内セミナーを企画・開催



安達 志保さん

製鉄原料グループ、自動車船グループなどを経て16年4月から人事グループダイバーシティ推進チーム長。趣味は茶道で「月に1~2回程度ですが、日常とは違う空間で目の前の所作に集中すると気持ちが落ち着いてリフレッシュできます」

キャリアブランクを克服し 活躍できる環境づくりを

現在の業務について、教えてください。

安達 多様な背景をもつ社員が安心して働ける環境を整えて活躍を推進するのが、このチームの役割。その一つが女性活躍推進で、キャリア形成を支援するための面談・研修の開催や産休・育休制度を取得する社員のサポート等、さまざまな活動を行っています。最近では育児や介護など制約のある部下を持つ管理職のための「育ボスセミナー」、育児中の社員を対象とした「パパママセミナー」を開催し、意識改革に取り組んでいます。

大松 私自身の経験では、まずは無事に出産する事で頭がいっぱいだったので、保育園をどうするか、いつ職場に復帰するかと言われても、全くイメージが湧きませんでした。当時の経験を生かし、産休前面談ではなるべく具体的に復職時の育児と仕事の両立について説明しています。また保育園の情報収集についても早めのアクションを勧め、保育施設探しの選択肢の一つとして当社の事業所内保育所を活用してもらう等、アドバイスしています。

今後の目標はいかがですか。

安達 グローバルに事業を展開する当社では、海外での勤務を通じて「包容力と柔軟性・リーダーシップ・マネジメント能力」を磨くことは、キャリアパスの重要な要素です。女性活躍推進法の行動計画として、女性の海外勤務経験者を増やしていくことを目標に掲げています。育児や介護といったライフイベントによるブランクが発生しても、男女問わずグローバルなフィールドで活躍してもらえるよう、国内外どこでもキャリア形成ができる環境づくりを進めていきます。

■日本郵船の女性活躍推進

当社は2001年に総合職と一般職に分かれていた人事制度を一本化し、法定基準以上の産休・育休制度、配偶者転勤・休業制度を導入するなど両立支援のための環境整備を進めてきました。本社の女性社員数は16年3月末時点で281人(全社員の18%)で、女性管理職の比率は15%。海技免状を保有する海技者の女性も14人に達しています。義務教育までの子どもを抱えて働くワーキングマザーは51人で、産休中は9人、育休中は18人。2014年には女性の子ども連れ海外赴任が初めて実現しました。



内藤忠顕 社長

差別化の源泉「きらり技術力」とは

日本郵船は2014年4月から中期経営計画“More Than Shipping 2018 (MTS2018)”をスタートさせました。「きらり技術力」とは、この中期経営計画を進める際の重要なキーワードで、テクノロジーだけを指すのではなく、創意工夫・改善・物事を変えていく力などを含めた創造的解決力のことです。



注1 3M:「ムダ」、「ムラ」、「ムリ」の意味

注2 3I'S:日本郵船グループ・バリュー「誠意 (integrity)」、「創意 (innovation)」、「熱意 (intensity)」の意味

当社グループの中で生まれた、あるいは芽を出しつつある「きらり技術力」のプロジェクトをシリーズで紹介していきます。

この活動をグループを挙げて進めるため、2014年に「きらり技術力推進グループ」を設置し、プロジェクトマネージャーを育成する「きらり道場」や、きらり技術力の発掘・育成および社内起業を支援する「きらり技術力育成ファンド」などが始動しました。

料にしたタブボートの就航と LNG 燃料販売事業への参画——といった新たな取り組みが実を結びました。

海運業界は今、かつてない苦境に立たされています。鉄鉱石や石炭を運ぶ不定期船のマーケットは2012年ごろから低迷し、いまだにトンネルの出口は見えません。コンテナ船は1隻にコンテナを1万個以上積むことができる大型船が続々と就航し、供給増加で運賃が大きく下がった結果、多くのコンテナ船会社の経営が悪化しています。大きな要因として考えられているのは、投機的な資本の海運業への流入です。その結果、ノウハウがなくても海運業を立ち上げることができ、新たな過当競争が生まれてきました。加えて、新興国が続々と造船業に参入し、大量の新造船が供給されるよ

うになっています。多くの海運経営者が海運の新たな変革期に直面し、かつてない危機意識にとらわれているのです。これに打ち勝つため、内藤忠顕社長は「大きな発明や開発でなくても良い。ライバルの半歩でも良いから先を行くための差別化の芽が現場から出てくるような組織を生み、育てていこう」と社員を鼓舞しています。これまでに、マビックデータを活用して、船陸間でタイムリーにデータを共有できる船舶パフォーマンスマネジメントシステム「SMS」の稼働▽温度だけでなく、酸素や窒素もコントロールする機能を備えたCAコンテナの開発(3ページ参照)▽LNGを燃

創意工夫で差別化を図り、さらなる付加価値を生み出す

横浜港大さん橋での海の日イベント

当社グループは、7月18日の海の日に横浜港大さん橋ふ頭で、当社が運航する自動車専用船「DIONE LEADER」、郵船クルーズ(株)が運航する客船「飛鳥II」の船内見学会、(株)ウィングマリタイムサービスが運航するLNG燃料タグボート「魁(さきがけ)」の体験乗船会を実施しました。このイベントは「海と日本プロジェクト」参加プログラムの一つとして一般社団法人日本船主協会と共催したもので、参加者からは、「自動車をギリギリに駐車するデモンストレーションの迫力に圧倒された」などの感想が寄せられました。(2016年7月)



インドネシアの新コンテナターミナルが操業開始

当社が、インドネシア港湾公社PT Pelabuhan Indonesia II (Persero)、三井物産(株)およびPSA International Pte Ltd (本社:シンガポール)と共同で出資参画したインドネシア・ジャカルタのタンジュンプリオク港沖合の新コンテナターミナルが8月18日に商業操業を開始しました。同ターミナルは、コンテナの年間取扱容量約150万TEU、全長850メートル、喫水16メートルと、最新鋭の大型コンテナ船にも対応可能で、環境配慮型の荷役機器を使用したグリーン・ターミナルです。(2016年8月)

LNG燃料供給・販売で全世界ブランドのGAS4SEAを新発表

当社はENGIE SA (本社:フランス)、三菱商事(株)と共に船舶向けLNG燃料の供給・販売に関する全世界ブランドとなる「Gas4Sea(ガスフォーシー)」を立ち上げ、9月6日にハンブルグで共同記者会見を開催しました。2014年に当社はENGIE、三菱商事(株)との間でLNG燃料供給事業の全世界的な市場開拓に関する基本合意書を締結している。この合意を受け、3社はGas4Seaのブランドの下、2016年中に世界初となる新造のLNG燃料供給船を投入し、ベルギー・ゼーブルージュ港を拠点としたLNG燃料供給・販売事業をスタートします。(2016年9月)

世界初のLNG燃料自動車船が竣工

当社とWallenius Lines (本社:スウェーデン)が50%ずつ出資するUnited European Car Carriers社(本社:ノルウェー)が発注していた自動車専用船の1番船となる「AUTO ECO(11月下旬に命名予定)」が9月29日に竣工しました。LNGと重油を燃料とする二元燃料エンジンを搭載し、LNG燃料で航行可能な世界初の自動車専用船です。また、本船には最高水準の耐氷仕様を採用しており、厳しい氷海域である冬季のバルト海でも年間を通じて安定的な航海が可能です。(2016年9月)



海運業界ニュース

新パナマ運河開通

太平洋と大西洋を結ぶパナマ運河の新レーンが、2007年からの大工事の末に完全に完成しました。6月26日に現地で行われ、翌27日に新レーンの商用供用が始まりました。パナマ運河を通行できる最大の船型を「パナマックス」と呼びますが、新レーンは従来よりも大型の船舶が通航することができ、米国東岸から日本への液化石油ガス(LPG)、液化天然ガス(LNG)、石炭、アジアから米国東岸へのコンテナなど輸送する船舶をより大型化できるようになりました。当社が運航する大型LPG運搬船「Lycaste Peace」が、商用供用が開始された新パナマ運河を最初に通航しました。



NYKニュース

コンテナ船の新アライアンス設立

当社は日本と海外の他船社と共にコンテナ船の新たなアライアンスとなる「ザ・アライアンス」を設立することで合意しました。ザ・アライアンスの最初の合意期間は5年で、2017年4月頃からのサービス開始予定です。ザ・アライアンスは今後竣工予定の最新鋭の大型コンテナ船を順次投入し、より広範なネットワークと高いスケジュールの順守率を実現します。またアジア、北米、欧州、地中海、中東の寄港地を増やし、直行サービスを充実させていきます。(2016年5月)

海運業初「攻めのIT経営銘柄2016」に選定

当社は、東京証券取引所と経済産業省が共同で選定する「攻めのIT経営銘柄2016」に海運業で初めて選ばれました。当社のITへの積極的な取り組みおよびIT政策の立案と執行について適正なガバナンスを確保している社内体制が高く評価され、今回の選定となりました。「攻めのIT経営銘柄」は、中長期的な企業価値の向上や競争力の強化といった視点から経営改革、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なIT活用に取り組んでいる企業を選定、公表するものです。(2016年6月)

EMAS CHIYODA Subseaへの資本参加を決定

当社はEMAS CHIYODA Subsea Limited (以下ECS社)の総株式の25%を取得し、資本参加することをECS社の株主であるEzra Holdings Limited (本社:シンガポール)および千代田化工建設(株)と合意しました。ECS社は石油やガスなど海底資源の生産に必要な海中・海底(サブシー)関連設備のEPCI業務をグローバルに展開しています。当社は新たにサブシーEPCI事業へ参画することで、上流資源開発領域でさらに幅広いサービスを提供していきます。(2016年6月)



ドライカレーと福神漬け



盛付け調理例

私たちにとって身近な存在のカレー。日本だけでもさまざまな種類がありますが、ドライカレーは当社の船上で誕生しました。明治時代、欧州航路客船「三島丸」の食堂で、長旅に疲れて食欲不振になってしまったお客さまが食べやすいようにと、日本人コックが考案したと伝えられています。

また、カレーに福神漬けを添えるのも、当社が運航する客船で考案されたといわれています。当初付け合わせに使用していたチャツネ（果物や野菜にスパイスやビネガーなどを加え熟成させたインド発祥の調味料）が不足した際に、福神漬けを代用したところ好評で、次第に定番となって広まっていきました。福神漬けの赤色は、チャツネの色にならって着色したとされています。



氷川丸ドライカレー（2食入り）
マイルド／辛口 各820円
販売者：郵船ナブテック株

<http://www.ynt.co.jp/ct/index.html>

このほか、ハッシュドビーフシチューやフライドオニオンなども販売されています。通信販売のほか、日本郵船歴史博物館や氷川丸ボードウォークショップ等で購入できます。

海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

【新パナマ運河】〈しんぱなまうなが〉

13ページ

1914年に開通したパナマ運河は、太平洋と大西洋を結ぶ全長約80kmの国際運河。年間約1万4000隻が利用する。パナマ政府は2007年、総事業費52億5000万ドルをかけて運河を拡張する工事に着手。2レーンある既存の閘門（水位の異なる水路の間で船を上下させる装置）よりも大きな第3閘門を新たに建設し、2016年6月27日に新閘門の商用供用が始まった。

【パナマックス】〈ぱなまっくす〉

13ページ

パナマ運河は海面と運河中央部の湖に約26mの高低差があるため、閘門で水をせき止めて水位を調整しながら船を通航させる。通航船の大きさは、水位を調整する際に船を収める閘室の大きさから全長294.1m、幅32.3m、喫水12.0mに制限されている。この制限内の最大船型を「パナマックス」と呼ぶ。新たに建設された第3閘門では全長366m、幅49m、喫水15.2mまでの船が通行可能になった。

【サブシー、EPCI】〈さぶしー、いーびーしーあい〉

13ページ

海洋石油・ガス田の海中・海底（サブシー）生産システムの略称。海底に設置された生産・処理設備と浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備（FPSO）への流送設備を含む。海中・海底設備のエンジニアリング分野で、設計（Engineering）、調達（Procurement）、建設（Construction）、据付（Installation）を総称し、サブシーEPCI事業と呼ぶ。

【TEU】〈ていーいーゆー〉

14ページ

“twenty-foot equivalent unit”の略で、長さ20フィート（約6.1メートル）のコンテナに換算したコンテナ貨物量を表す単位。40フィートのコンテナに換算した単位のFEU（forty-foot equivalent unit）はTEUの2倍の量になる。現在使われている海上コンテナは長さ40フィートのものが主流だが、コンテナ船の貨物積載能力や港湾のコンテナ貨物取扱量はTEUで表すのが一般的。

【LNG燃料船】〈えるえぬじーねんりょうせん〉

14ページ

従来の重油に代わってLNG（液化天然ガス）を燃料とする船舶。LNG燃料は重油と比べて窒素酸化物（NOx）と二酸化炭素（CO₂）の排出量が少なく、硫黄酸化物（SOx）、粒子状物質（PM）を全く排出しないため、次世代の船舶燃料として注目されている。その普及に向けては、重油と比べて取り扱いが難しいLNG燃料の船舶への供給体制の整備が課題。現在、LNG燃料船は欧州のフェリーやクルーズ船を中心に導入され、陸上タンクやタンクローリーによる燃料供給が主流だが、遠距離を航行する大型のLNG燃料船への燃料供給では、専用のLNG燃料供給船が必要になるとみられている。

■ TAKARAZUKA ON ASUKAI

2017年4月14日(金) 横浜発～16日(日) 横浜着 旅行代金 119,000～550,000円

■ 陽春の釜山・博多・種子島クルーズ ●

【Aコース】2017年4月22日(日) 横浜発～28日(金) 横浜着 旅行代金 222,000～1,104,000円

【Bコース】2017年4月22日(日) 横浜発～25日(日) 博多着 旅行代金 156,000～786,000円

【Cコース】2017年4月25日(日) 博多発～28日(金) 横浜着 旅行代金 156,000～786,000円

■ ゴールデンウィーク 駿河・伊勢クルーズ ●

2017年4月30日(日) 東京発～5月3日(水) 東京着 旅行代金 150,000～747,000円

■ 新緑満喫クルーズ ●

【Aコース】2017年5月7日(日) 東京発～17日(日) 横浜着 旅行代金 370,000～1,840,000円

◆このほかにもコースの設定がございます。

■ ウィークエンド 仙台 青葉クルーズ

2017年5月19日(金) 横浜発～21日(日) 横浜着 旅行代金 104,000～524,000円

■ 名古屋発着 北海道・みちのくクルーズ ●●●●

【Aコース】2017年5月22日(日) 名古屋発～28日(日) 名古屋着 旅行代金 312,000～1,572,000円

【Bコース】2017年5月22日(日) 名古屋発～25日(日) 釧路着 旅行代金 156,000～786,000円

【Cコース】2017年5月25日(日) 釧路発～28日(日) 名古屋着 旅行代金 156,000～786,000円

■ 神戸発着 日向・土佐クルーズ ●

2017年5月29日(日) 神戸発～6月1日(日) 神戸着 旅行代金 126,000～630,000円

■ 神戸発着 日南・奄美クルーズ ●

2017年6月3日(日) 神戸発～7日(日) 神戸着 旅行代金 168,000～840,000円

■ 2017年日本一周グランドクルーズ ●●●●

【Aコース】2017年6月7日(日) 神戸発～7月11日(日) 神戸着

【Bコース】2017年6月8日(日) 横浜発～7月12日(日) 横浜着

通常旅行代金 1,808,000～8,185,000円

◆このほかにもコースの設定がございます。

■ HULA ON ASUKAI

2017年8月19日(日) 横浜発～21日(日) 横浜着 旅行代金 108,000～479,000円

■ 金沢発着 慶州・境港クルーズ ●●

2017年9月1日(日) 金沢発～4日(日) 金沢着 旅行代金 98,000～513,000円

■ 仙台発 ひたち・横浜クルーズ

2017年9月14日(日) 仙台発～16日(日) 横浜着 旅行代金 84,000～420,000円

■ 秋の日本一周クルーズ ●●

【Aコース】2017年9月18日(日) 横浜発～28日(日) 横浜着 旅行代金 580,000～2,620,000円

【Bコース】2017年9月19日(日) 神戸発～29日(日) 神戸着 旅行代金 580,000～2,620,000円

◆このほかにもコースの設定がございます。

下記の各種キャンペーンや割引などが設定されています。

- = 区間コース販売
- = 子供代金キャンペーン
- = 早期全額支払割引 / 早期申込割引(※1)
- = アスカクラブ特別割引(※2)
- = スイートトリプルキャンペーン
- = フリードリンクキャンペーン
- = K3キッズキャンペーン
- = 初乗船キャンペーン

(※1)の割引を適用の場合、株主優待割引はご利用いただけません。ご了承ください。

(※2) アスカクラブ特別割引の割引率はクルーズによって異なります。

その他のコース、割引などの詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ



郵船クルーズ株式会社

TEL 045-640-5301
FAX 045-640-5366
http://www.asukacruise.co.jp/

(営業時間 / 9:30～17:00 土・日・祝を除く)

北海道から南西諸島まで 35日間で日本をぐるり一周



伏木沖を航行する飛鳥II (撮影:中村庸夫)

2017年6月、飛鳥IIは日本一周グランドクルーズへと出航します。北海道から南西諸島まで、ロシアや台湾にも立ち寄りながら日本をぐるりと一周するコースです。3つの初寄港地を含む19もの港を35日間かけてめぐります。

留萌、佐世保、澎湖(台湾)では、乗客の皆さまに特典ツアーをご用意いたします。また、各地の世界遺産や地元の魅力を訪ねる多彩なオプションツアーをご用意しております。

フリードリンクキャンペーンやゲストシエフによる特別ディナーのご提供のほか、ゲストエンターテイナーが次々と登場するなど充実の内容でお届けいたします。

この機会に、盛りだくさんの日本一周グランドクルーズをお楽しみください。

\ plus /

NYKと菊のはなし

日本の国花である菊。秋は「菊まつり」や「菊人形」などの展覧会が全国各地で開催されます。菊は切り花の輸入の中でトップとなっており、2位のカーネーションの2倍近くの輸入量があります。生鮮品なので空輸が主ですが、近隣諸国から船便での輸入も増えているようです。マレーシア、ベトナム、中国からの輸入が90%以上を占めています。



日本郵船